

ひかりのこ

1, 2月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2022年1月20日

月主題:じっくりと、わかちあって

「保護者の交流が子どもたちの心を育む」

新年あけましておめでとうございます。

1月には大雪が降り、雪かきや、車の渋滞に耐える毎日でした。また、急速にコロナ感染が拡大し、気の抜けない状況が続きます。3学期もコロナ感染予防の対策をしっかりととりながらも、子どもたちを伸び伸びと育てていきたいと思っております。保護者の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、札幌聖ミカエル教会では、毎週日曜日の9時から「日曜学校」を行っています。そこには、聖ミカエル幼稚園を卒園した子どもたちと保護者の皆さまがたくさん集まってきました。そんな朝の礼拝堂には温かなすがすがしい空気が流れています。礼拝が終わった後には、子どもたちやお父さんお母さんが言葉を交わし、まるで同窓会のようなようです。

昔からミカエルのお父さんお母さんは父の会、バザー、送り迎え、茶話会を通して仲良くなり、子どもたちは多くの保護者に見守られながら、成長してきました。

ところが、2年前にコロナ感染が広まり、幼稚園として、保護者の出入りを制限するようになりました。この状況が続くことを、私はとても危惧しています。

お父さんお母さん方が、仲良くし、子どものために活動する姿は、子どもが様々な人を受け入れ、仲良くすることを学ぶ、お手本となります。人とつながる楽しさを感じるお手本となります。

現在の各クラスの役員さんたちは、役員決めの時には、快くお仕事を引き受けてくださったと聞きます。絵本サークル、ゴスペルサークルのお母さん方もこの状況の中で頑張ってお仕事を続けています。子どもたちに絵本を読んでくれたり、屋外で練習をしてビデオで素敵な歌を聞かせてくださったりしています。

皆さん、子どもたちの喜び顔を見るために、活動を続けてくださ

っているのです。

4月には、園舎が新しくなり、クラスも3クラスから4クラスに増えます。コロナ感染のリスクもまだまだ続きます。その中でも、保護者の皆様、どうぞ父母の会を大切に、子どもたちに人とつながる楽しさを伝えてくだされば、と願っております。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「新生児微笑」

昨年末のこの欄で赤ちゃんのことを書きましたが、先日、ついにその赤ちゃんに会うことができました。

家中が赤ちゃんを中心に回っている様子で、お母さんは極度の寝不足に見舞われながらも、祖父、祖母のお二人とともに困惑しながらも楽しく過ごされていて、心温まる風景がありました。これを読まれているお母さん方も同じようなご経験があることでしょうか。

不思議なのは、赤ちゃんは初対面の家族以外の大人にも、笑顔を見せてくれます。あの笑顔はまさに天使そのものです。しかし、幼児心理学などでは、あの笑顔は新生児微笑といって、生理的な反応で特別な意味はない、などの説明があるのですが、果たして本当にそうでしょうか。あの微笑みは、私には人間が本来持っている他者と共に生きようとする心、仲良くしたいという本性の表れに見えてしまいます。聖書には「いつも喜んでいなさい」という言葉がありますが、それは赤ちゃんだった自分が持っていた安心と喜びを取り戻しなさいという意味ではないでしょうか。

4月にはミカエル幼稚園にも赤ちゃんがやってきます。風景が大きく変わるかもしれません。赤ちゃんから笑顔を分けてもらい、幼稚園全体が「いつも喜ぶ」場所になることを楽しみにしています。

チャプレン 司祭 下澤 昌